



(NO FENCE IN NORTH KOREA)

NO FENCE

E-mail: nf-staff@netlive.ne.jp

〒102-0093 千代田区平河町1-5-7-203 TEL&FAX 03-3262-7473 http://nofence.netlive.ne.jp 【郵便振替口座】 NO FENCE / 00180-1-707147

誇りある人間として、歴史に禍根を残さないために、罫いの中に閉じ込められ、いのちを冒瀆されている人たちを放置しない。

vol. 11

2011年2月

NO FENCE



INDEX

- NO FENCE 最近の活動 2
- 北朝鮮急変事態に関連する論議・関連情報 ... 3
- インテリジェンスリテラシーの不在 砂川昌順 4
- [基礎知識] 〈10〉-最終回-
体制崩壊と収容所廃絶の同一性と差異 小川晴久 6
- 12・4 / 金へスクさん証言報告 **特集** ... 宋・木原 13
- 絵で描いた政治犯収容所資料集 韓国で発刊 14

情報は、
硬く厚い壁をも開けることのできる
最大の道具

北朝鮮で携帯電話の普及加速
ごく一部の富裕層で
双方向で小さな穴を開ける試みの期待！

民主化を訴えたら、犯罪者として
重罪を課せられた中国の劉曉波氏を
本当に理解できている？
北朝鮮の強制収容所の放置は、人権を
踏みにじる非人道政府への加担ではない？

ここまで用みに出ている証拠を前に

まだなにも見えない素振りをする？



11月～2月
2010～2011年

最近の活動
NO FENCE



<2010年>

■11月8～10日

韓中日主催・脱北難民強制北送の中止及び劉曉波釈放要求市民行動
(於：韓国)に、小川副代表参加。市民団体との連帯と情報交換を図る。

■11月9日

「北朝鮮難民と人道問題に関する民主党議員連盟／第二回勉強会」協力。
強制収容所体験者《金ヘスクさん証言集会》実施。
狭い部屋はいっぱいになり立って傍聴する人も多く、参加者は50人以上。
議員の参加はそのうちの約三分の一。ほかは一般参加者やマスコミなど。

■12月4日

金ヘスクさん、『とことん聞きます』証言会開催

(10月10日の証言会では、金正恩の世襲問題と抱き合わせであり、
11月9日の院内集会でも、落ち着いてゆっくり話を聞ける状態では
なかったため、改めてじっくり丁寧に証言を聞く機会を持った。

▶▶証言内容 →(7～12頁)

<2011年>

■「2月16日・日韓バルーンプロジェクト集会」
日本開催計画賛同団体に参加。



収容所体験者証言集会

13歳から28年間 収監されていた
収容所であったこと

とことん、聞きます

なんの罪もない子どもが
連座制という罪状で
28年も
強制収容所に収監
された

キム
金ヘスクさん

◆キム・ヘスクさん
1962年 平壤市生まれ
1975年 連座制により平安南道北倉部の18号管理所移住
英武学園に在学
2001年 2月16日 帰途
2008年 1月25日 18号管理所に再移送
2008年 3月 18号管理所から脱出
2008年 6月5日 茂山から平壤に

●その他の報告
12月2日
韓国で「収容所解体運動本部」発足
/宋允復さん

ニューズウィークアジアの
インタビューを収録した
新しいアプロ-

みなさまの質問にもお答えします。
自分で描いたイラストも持参します。

2010年
12/4(土) 午後1時30分～4時

●専修大学(神田) 2号館 204号教室

〒101-8425 東京都千代田区神田神保町3-8
*水曜機庫 (JR) 西口より徒歩7分
*九段下駅 (地下鉄/東西線、都営新宿線、半蔵門線) 出口5より徒歩3分
*神保町駅 (地下鉄/都営三田線、都営新宿線、半蔵門線) 出口A2より徒歩3分

NO FENCE IN NORTH KOREA

主催: NO FENCE
(北朝鮮の強制的収容所をなくすアクション)

〒102-0093 千代田区平河町1-5-7-203 電話: TEL. 090-9329-7734 http://nofence.net/



北朝鮮の情報

北朝鮮で携帯電話急増

[2011-01-24] asahi.comほか

- 加入者は2010年の9月の段階で30万人を突破。
- 5年以内に加入者の数は数百万人に達する予想。
- 北朝鮮では02年に携帯電話サービスが導入されたが、04年に、金正日総書記を狙ったと伝えられる列車爆破事故が発生。犯行グループが携帯電話を利用していただけ、携帯電話サービス自体が取りやめとなっていた。

しかし、09年3月、エジプト携帯大手企業オラスコム・テレコム(75%)と北朝鮮政府(25%)による合資会社・高麗電信が再提供。
北朝鮮の携帯電話1台の価格は、加入費を合わせると日本円で約12万円。北朝鮮の工場労働者は、月給が約180円なので、600月以上働かないと携帯電話は購入できないという

[2011-01-20] Daily NKより

●北朝鮮、咸鏡北道会寧で金正日、金正恩父子の三代世襲を非難するVCD(CDに動画を録画したもの。アルバムとも呼ばれている)が、市場の路地に無断放置され平壤から検閲隊が緊急に派遣され捜査に入っていると内部消息筋が20日に知らせてきた。この事件は、一日前に米国の自由アジア放送(RFA)が単独報道した。ただし、この動画は市場で販売された物ではなく、近隣市場の路地に約200枚がまかれてたものと消息筋は伝えた。

●「北の住民たち、口蹄疫に感染した牛だと分かっても食べる」

北朝鮮急変事態に関連する論議

2011年

2月

< Daily NK 2011.2.3 申周鉉 記者 記事より抜粋 >

「北、ルーマニアのように急速に崩壊する可能性が大きい」

【北朝鮮の急変事態の展望①】

「政治的混乱を勝ち抜いても 何年も持たないだろう」

韓国政府当局者の間では、金正日の不在は早期に北朝鮮急変事態につながる公算が大きいという言葉が公然としている。

● ウィキリークスの暴露内容によれば、(韓国の)ヒョン・インテク統一部長官は昨年7月にカート・キャンベル東アジア太平洋次官補に「金正日は2015年以後までに生きられないだろう。北朝鮮が突然崩壊する場合、韓国と米国政府は朝鮮半島統一のために速かに動かなければならない」と話した。

● 姜哲煥(カン・チョルファン)北朝鮮民主化戦略センター代表は「北朝鮮は貨幣改革以後、体制を支える力をほぼ失ってしまった。金正日の健康が体制の寿命を左右する可能性が最も大きい」と話す。金永煥(キム・ヨンファン)北朝鮮民主化ネットワーク研究委員は昨年末に朝鮮労働党代表者会の結果分析発表で「北朝鮮が金正恩後継体制下で致命的危機が訪れる可能性が60~70%程度になると見る」と話した。

北朝鮮を取り巻く対内外環境はすでに危機水準を越えている。続けざまの核実験とミサイル発射実験で国連の対北朝鮮制裁は続き、国際的孤立はより一層深刻化している。最近の金正日体制を唯一支援するのは中国だけだ。北朝鮮体制が危機に直面する場合、中国の支援は強い変化要求を伴う可能性が高く、少なくない負担が後に従うことになる。

● 世界競争力分析機関のエコノミスト・インテリジェンス・ユニットが167ヶ国を対象に2010年度の民主主義の発展レベルを調べる「民主主義指数」で、韓国は20位だったが、北朝鮮は167位と最下位を記録した。北朝鮮住民も脱北者との連絡や対北朝鮮放送の視聴、韓国のドラマの視聴を通じて、韓国と北朝鮮の生活像をよりダイレクトに比較できることになった。

北朝鮮住民の経済難に対する苦しみは、当局に対する極度の不信につながった。軍隊でも下級幹部と兵士は慢性的な栄養不足な状態だ。貨幣改革の失敗で、当局にはこれ以上期待出来ないという認識が固まった。

労働党幹部までもが、首領と党に対する「主人意識」と「社会主義」に対する情熱は持っていない。幹部の腐敗は、これ以上公正な行政処理を望めないレベルだ。そして、党幹部は人民を恐喝して軍隊は人民の財産を狙う盗賊団に転落した。

このような内外的危機にも関わらず、金正日が権力を握っているのは、金正日の権威と権力掌握能力が維持されているからだ。行政、経済、教育、医療システムの崩壊にも体制維持のための監視統制機構と処罰は存続している。

しかし、金正日が2008年の8月に脳卒中で倒れ、その後遺症を見せたことから体制維持に対する疑問は非常に膨らんだ。金正恩への権力世襲を急ぐのは、それだけ金正日が焦っていることを反映している。

金正日は、権力に対する執念が深く、権力統制においては政治工学と呼ばれるほどの才能を持っている。(中略)二重三重の監視と暴悪で冷静な性格は、高位幹部に金正日以外の代案を考えられないようにした。

金正恩は年齢も若く、授業時間が非常に短いだけでなく、没落直前の国家経済と極度に悪化した民心下で権力を委譲されることになる最悪の条件だ。

金正恩が権力を完全に掌握できない状態では、軍の高位幹部と権力を分担して行う可能性も考えられる。この場合、金正恩が徹底して幹部を掌握し、監視すること自体が難しくなる。住民への監視網も弱まらざるを得ない。これが続けば権力が二つの求心を持つことが出来ないという特徴を考慮した時、権力闘争は必然的だ。

● 09年1月、米国の外交が作成した北朝鮮の急変事態対応報告書では「権力闘争は、闘争当事者らが内部の支持や主要な資源を得るための資金の調達力と統治力、個人のネットワーク、組織能力によって左右されるだろう。特に、人民軍と国家安全保衛部の支援は、潜在的な権力闘争の結果に決定的な影響力を行使するだろう」と主張する。軍部内で派閥が存在するならば、平壤内の競争は極大化するだろうと見ている。

● キム・ヨンファン研究委員は「金正恩がむやみに権力を振り回したり、放置するとしても、一時的な混乱期を克服し、それなりに数年を乗り越える事は可能だ。金正恩が政治的危機を克服できない可能性は高いが、これを克服したとしても数年持続するだけで終わる可能性が大きい」と話した。

(申周鉉 記者)

<http://japan.dailynk.com/japanese/read.php?catald=nk01500&num=12172>

本文の前文にある囲み記事

2011年の年明けからアフリカ北部で民主化の熱い風が吹いている。チュニジアに続き、エジプト国民は30年にも及ぶムバラク独裁体制を終わらせ、民主主義を勝ち取るための闘争を展開している。2000年代初期に東欧やヨーロッパで起きたロシア、ジョージア、オレンドン、ウクライナ、チュリッブ、キルギスタン、革命に続く民主化下ミラ、第二弾。2009年のイランに続き、チュニジア、エジプトの民主化デモもSNSで呼ばれるフェイスブックが大衆を組織し、ツイッターがデモの便りを伝播している。

しかし、このようなサイバーネットワークが威力を發揮できない唯一な場所、それが北朝鮮だ。独裁国家の中でも天と地の差だ。このような北朝鮮も体制崩壊の危機を迎えるのだろうか？ デイリーNKはアフリカ北部で民主化運動が揺れ動くこの時点で、北朝鮮急変の可能性を確かめてみた。

引継ぎのとき…隙ができる？



『引継ぎの時は、必ず隙ができる。その時が何かが起きるチャンスになるかもしれない。』

これはあるスーパに勤務する女性が、自分の職場体験から発した象徴的なことばだ。問題解決へ向けての活動方法に苦慮している集会の場で、その発想は日常的と片付けるのは拙速過ぎる。ひとつの重要な要素を含んでいる。

ここでは、関連情報を Daily NK の記事から要約引用する。

インテリジェンス リテラシーの不在

砂川昌順^{*}
NO FENCE 共同代表

外交にはインテリジェンス リテラシー (IL) が不可欠である。しかし、日本にはそれが不在だ。外交の実務者である外務省自体にIL意識が根付いておらず、その重要性すら認識していない。ILを実践しうる人材の活用能力も著しく欠落している上に、そのこと自体にも気づいていない。政治家が政治主導を唱えるのであれば、日本政府 (政権中枢) にも、IL意識や外交能力を有する人物がいないことになる。

つまるところ、大局的見地で真理を見極めることのできる人材が政府中枢に不在である。保身のみを考えた給料取りが日本丸の機関室を管理し、レーダーを監視しているところに問題がある。船はやがて暗礁に乗り上げるか嵐に沈没するか、故障で動けなくなるか海賊に襲われるか。先行き不透明感だけが漂っている。

昨年10月、元朝鮮労働党書記の黄長燁氏が亡くなった。1997年に北京の韓国大使館に亡命を申請してから13年以上も経過していた。

その間、対北朝鮮外交戦略を練る上で、日本は彼から情報を収集し分析していたのであろうか? 収集する側の能力が低ければ、情報も情報とはならない。ILの構成要素でもある収集、整理、分析、評価、共有、実現に向けた提言、そして実践といったステップも生まれてこない。

日本政府は、黄長燁氏を昨年4月に金賢姫を7月に招聘したが、既知の話だけが漏れ伝わり高度な情報は得られていない。招聘の前年11月、黄氏が日本からの招聘を受けるかどうか迷っていた時期に数時間にわたり膝を交えて懇親した。彼は金正日独裁体制批判をはじめ多くのことを語った。日本政府の招聘目的が明確ではないとも批判していた。拉致問題については、それがすべてではないと言いつつも、拉致被害者の居場所について、口外しないことを条件に (同氏の死亡により公表) 「実際、わたしは一つの所 (私見: 1人なのか、複数人で居住地が1箇所なのか不明) だけはわかっています。どこにおるといことは…。皆はわかっている (誰にも知られていない居場所を自分は知っているという意味なのか)」とも洩らした。

※金賢姫をノースハレーン国際空港で拘束した元外務事務官。著書『極秘指令—金賢姫拘束の真相』がある。

米国の姿勢にも厳しかった。「米中が協力すれ



ば大きな問題が解決するが、米国は虎を描こうとして犬を描くようなことになってはならない(私見:画虎類狗の故事から転じて、実践に基づかない軽薄で浅はかなことをしてはならないとも解釈できる)」とも説いた。さらに、「中国に期待するのではなく、中国に対し主張すべきである。主張して協力させる。六者会合は意味がない。北朝鮮の核拡散抑制だけを訴えて根本的な解決は図れない。金正日と取り引きするのは愚かだ。民主主義国家が団結することが第一である」と語調を強めた。

数時間におよぶ懇親の内容は豊富で多岐にわたるため、ここで全容を伝えることはできないが、彼が最も心を痛めていたのは、独裁体制で虐げられている北朝鮮国民のことであった。彼はかつて独裁国家の中樞にいた人物ではあるが、人を中心に据える理念と実践哲学を説く戦略的頭脳を備えていた。北朝鮮の政治思想を哲学的に論理構成した人物である。その彼に、日本政府はどう対峙してきたのか?

金賢姫の招聘に関しては、ILの欠片も、大韓航空機爆破事件の犠牲者遺族への配慮も見られない。ましてや、対北朝鮮外交戦略に資するだけの成果も得られていない。かつて、金賢姫の拘束や取り調べにあたっては、限られた時間の中で彼女の性格を分析し、戦略を立てて対峙した。拉致や帰国者問題等を人権問題として国際社会に訴えようと目論む日本政府だが、強制収容所問題に対する知識はゼロに等しい。統合的外交戦略を組み立て

られない日本政府の言動は、国際社会から理解されず、国家としての威信さえも失い続けている。自らの主張を押し通せるだけのソースを備えられない日本はせいぜい、六者会合で核廃絶に向けた米国の主張をフォローする意見と、国内世論を考慮したうわべだけの制裁論や人権論を展開するぐらいが関の山だ。

ならば、政府に期待せず民間として何にどう取り組んでいくかだ。コスト対成果から見れば、ILにおける優秀な人材は民間に多い。仮に、これらの人材に時間と予算、適切な権限が与えられるとするならば、相当レベルの成果が達成されていくであろう。制約の多い中で、どう実践していくかが課題となってくるが、少なくとも、停滞した現状を打破できる。

拉致/帰国者/強制収容所問題をはじめとする人権問題の解決は緊急を要する。政府としてすべきことがあるが、先ずはわれわれに出来ることを考えたい。政府がエンドースすれば、give and takeのテーブルにつくのは民間からの人材でも構わないはずだ。解決の図れる人材が事に当たればよい。その方が、giveの材料を幅広く探せる可能性が高い。

この危機的状況を理解し一元外交を主張するのであれば、政府は戦略を組み立て両国の狭間で利害を調整できる官民の垣根を越えたフィクサーたちに資金と権限を与え、実践するまでのILをさせてみてはいかがであるうか。目を凝らせばフィクサーの任を果たせる人材は見つかるはずだ。日本政府と北朝鮮に、それを推進するだけの、またそれに応じるだけの度量があれば、お互いの威信を損ねることなく、問題は解決へと向かうであろう。両国にとって悪い話ではない。

[挟み込みコラム]

『情報亡国の危機 — インテリジェンス・リテラシーのすすめ』(中西輝政著)という本が注目を集めている。「インテリジェンス・リテラシー」とは、情報解析力・情報解読力と、情報の発信力・伝達力というものを合わせた活用力という意味の解釈か?まさに必須の視点と能力。(編集子)

体制崩壊と収容所廃絶の 同一性と差異



NO FENCE 副代表

小川 晴久

*オガワハルヒサ 二松学舎大教授 東大名誉教授(東アジア思想史)

● 北朝鮮は1967年5月秘密の中央委員会総会で唯一思想体系(チュチェ思想)を承認して全体主義国家になった。全体主義とは、個々人の自発性が除去され、自由が廃絶された体制である。画一化された体制といってもよい。金日成の思想だけを知っていればよいというのが唯一思想の意味である。金日成以外の優れた人物や思想・文化の存在は許されず、それを主張することは、反革命分子とされる。このような全体主義の支配を維持する手段が3つある。一人支配(一党独裁)、秘密警察、強制収容所である(ハンナ・アレント)。

この関係から言えることは、全体主義体制が崩壊すれば、強制収容所も必要なくなり、両者は運命を共にする。つまり体制の崩壊と強制収容所の廃絶は同一のことである。この点の理解はたやすい。しかし収容所がなくなるのは、体制が崩壊する時だと一般化される時、私たちNO FENCEはそれは違うと叫びたい。北朝鮮強制収容所体験者の手記を読まないで、その違いに気がつかないのが困ったことである。基礎知識の最終回として、両者の差異について考えたい。それは北朝鮮強制収容所の比類のないひどさを確認するところから始まる。

- ①政治犯とされた本人だけでなく、政治犯と血縁でつながりのある者は全て収監するという血縁的連座制。反革命分子は三代にわたって根絶やしにしろという1968年の金日成教示による。
- ②裁判もなしに一夜のうちに収監する。
- ③外部と完全に遮断する。文通、差し入れなど一切禁止する。
- ④完全に外部社会から密閉されているため、収容所内部ではありとあらゆる悪が収容者に行使される。体験者の手記と証言で明らかである。
- ⑤労働者・農民が主人公の国であるといいながら、収容所内部では8時間労働制を一切守らず、その倍の16時間も強制労働させている(反労働者階級性)。
- ⑥人権蹂躪の限りを尽しながら、北朝鮮は1981年9月に世界人権宣言を具体化した2つの国際人権規約に加盟している(人権をあざ笑う悪魔性)。

⑦体験者の手記や人工衛星写真で強制収容所(管理所)の存在は明々白々でありながら、それを否認し続ける巨大な偽り。北朝鮮(当局)は100%嘘をつく国になってしまった。

以上の数々の巨悪が日常的に行使されている空間(強制収容所)が日本からジェット旅客機でわずか3時間の北朝鮮の山の中に10箇所前後存在している(今回の金ヘスクさんの証言で、6箇所説を改める)。

このことを知った時、その人の心は穏やかで居られるであろうか。以上の7点のうち我々が怒りに震えるのは特に④である。外部と完全に遮断された密閉された空間の中で20万余に上る人々にありとあらゆる悪が行使されている。自由を拘束された人(注一囚人)にも人間の尊厳は保障されなければならないと国際人権規約(自由権規約)第10条で規定されている現代(21世紀)にあつて、そしてこの規約を批准している北朝鮮にあつて、このようなことが行われているという事実が、体験者の複数の証言と手記で立証されているにも拘らず、この事実を知っている日本国民は少ない。公共放送のNHKが特集を組んで報道しないからである。日本の主要な政党がこの事実依然として無知であるからである。NHKと政党・政治家のこの無知は犯罪的であるとさえ言える。北朝鮮の山の中にある10箇所前後ある強制収容所の犯罪は勿論のこと、それに関する無知も、人道の名における犯罪である。

NO FENCEはこの二重の犯罪をこれ以上放置してはならぬという決意から3年前の2008年4月13日に誕生した。NO FENCEは北朝鮮の強制収容所をなくすアクションの会である。北朝鮮強制収容所の巨悪を国内外の人々に知らせ、それをなくしていく運動体である。北朝鮮の体制は北朝鮮の人々が決める。

しかし北朝鮮の強制収容所の以上のような巨悪は一刻も早くなくさなければならない。人権は国境を越える。体制と収容所の同一性ではなく差異に我々NO FENCEは着眼し、人間としての責任を果たそうとする。多くの人の参加を求める所以である。

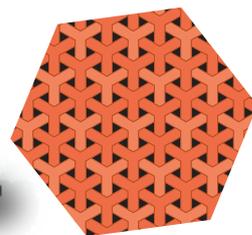
<北朝鮮人権問題啓発週間>に向けて
=収容所体験者キム・ヘスク証言集会=

連座制で13歳から28年間強制収容所に収監されていた

2010年
12月4日

キム・ヘスクさんの証言

特集



通訳: 宋 允復 (NO FENCE事務局長)

2010年10月10日 『北朝鮮の天国と地獄』の講演会(前号掲載)では充分聞ききれなかった内容を再度同年12月4日、キム・ヘスクさんから詳しく聞く機会を得ました。

少々長いです、分割せずに掲載します。
文字が小さくなりますがご了承下さい。

(衛星写真を指しながら…宋氏前説) ①②は、12頁をご覧ください。

①『『北朝鮮 隠された強制収容所』という本にも収められているこの衛星写真がキム・ヘスクさんのいた18号管理所を捉えたものです。黒く映っているのは大同江(テドンガン)という川です。この大同江を境にして南の方がヘスクさんのいた北倉(プッチャン)の18号管理所です。川を隔てて向かいの北側が价川(ケチョン)の14号管理所、申東赫(シンドンヒョク)さんのいた完全統制区域ですね。

この北倉の収容所は社会安全省、警察に相当する機関の管轄になっています。向かいの价川収容所は保衛部管轄です。若干性格が違うのです。その点についてはキムヘスクさんからお聞きします。

②別の衛星写真(上記104頁所収)の1番と番号をふってあるのは、キムヘスクさんが労働に従事していたハンジェ鉱という炭鉱です。この上の方の2番が火薬庫、炭鉱に仕掛けるダイナマイトなど爆発物を置いてある倉庫です。その向かいに、少し見にくいのですが、ハーモニカ長屋のような囚人達の家があります。上から3番目の家にキムヘスクさん家族が住んでいたそうです。ハーモニカ長屋は一棟の中に4世帯入るようになっていて、その3番目の部屋に家族7人で入っていたそうです。すでに公開されている収容所の衛星写真にもはっきり映っていたことを紹介しました。それではキムヘスクさん、お話をお願いします

キムヘスクさん

こんにちは

私が収容所に入ったのは13歳の時です。私以外の家族、父、母、妹、弟が先に1970年に収容所に送りこまれていたのです。ところが私は母方の祖母の家に預けられていたので、1975年になって後から収容所に送り込まれました。

母が仕事をしていて子供にあまり手をかけられなかったので、私は祖母さんに預けられていた。ところが家族が1970年に北倉収容所に送られてしまった、その後地域の安全員が祖母の家に何度もやってきて、家族はもうとっくに管理所に送られたのだから、こいつも早く送らなければならぬのだと。この祖母と一緒に叔母が住んでいたのですが、その叔母にこの娘を早く収容所に連れて行けと安全員が何度もせつきました。しかし叔母は腰が曲がっていて私を遠い所まで連れて行く気は無かったので、父方の伯母が私を連れて、手をつないで収容所の正門の所まで連れて行きました。

収容所で伯母さんから母に引き渡されたのですが、5年ぶりを見る母に本当

にびっくりしました。きれいだった母はやせこけて服も破けたボコ、靴も割れていて何とか足を覆っている、非常にショックを受けました。

母に連れられ『家』に入ったのですが、とても粗末なわらの屋根で、雨が降ると曲がってしまっていて、水が漏れてくる。わらのところから蛇や虫も落ちてきました。私が加わって7人家族。母と父方の祖母、私が家を離れた後に生まれた弟2人、妹2人、そこに私を含めて7人になったのです。父はずでいなかった。後に聞かされたのは、74年の12月7日に保衛部にどこかに連れて行かれた。私が収容所に入ったのは75年2月末なのですが、その時に父はずでいませんでした。

夕食だと出された食事を見てまた驚きました。13歳まで生きてきてこんな食事は見たことがなかった。山から採ってきた草にとうもろこしが何粒か入っている。食べようとするのですが、あくが強くとてもものを通りませんでした。18号ではまだ配給というのがあって、7人家族に1ヶ月に配給されるとうもろこ

しの量は7kgから7,5kg。ところが1ヶ月置いておくと乾いてきて重量が減ってしまい、およそ4kg位になってしまうのです。

平壤に生まれ育ちお米のご飯や小麦の製品を食べていたので、そういう食事はのどを通らなかった。ただ食べずにいられたのも何食か、それ以後はそれしかないで食べました。しばらくしたら栄養失調でペラグラという症状にかかりました。ビタミン欠乏で、顔や手の皮膚がはがれてきて、外も歩けない状態になってしまいました。

収容所の中にも学校があって通っていましたが、学校といっても名ばかりで、朝の9時から12時半までは小学生たちが一応学校にいるのです。授業が終わると小学生は労働に出る。入れ替わりに午前中労働していた中学生が12時半から来て一応授業を受ける。

12時半から17時までには授業があるのですが、その中身は共産主義道徳、金日成元帥革命歴史、金正淑お母様の革命活動、金日成の母親である康盤石とか父親の金亨稷、金正日の活動についての授業。

中学生は午前中に炭鉱で土を掘ったり、午後5時に授業が終わったら、山に行って木材を伐採するのです。午後9時まで労働します。それが終わったら、家に帰ってご飯が食べられる。

16歳まで中学校に通うのです。学校に行っても、午前中は労働、12時から17時まで勉強、午後5時から夜9時まで労働、こういうかたちで16歳まで過ごした。17歳で中学校を卒業しました。

それでも当時はまだましでした。お母さんがまだ生きていて家の中のことをきりもりしてくれたので、当時はまだ自分は幸せでした。ところがお母さんが1979年の5月に亡くなりました。私は79年の8月に中学校を卒業しましたが、その年の5月に母が亡くなった。

当時、収容所の中では月に1回、月の

末日31日に一日休みがありました。その日は家族総出で山に上がって山菜摘みをやります。そうやって蓄えて生き延びるのです。普段炭鉱労働に通う道すがら、リュックみたいなものを持って道に生えている草を摘んで家で食べるのですが、それだけでは足りないの、月に一回休みの日は家族総出で山に上がって草を摘んで食べる。その草を摘んでいるさなかに母が貧血でよろめいて崖から落ちて死んでしまいました。

母が亡くなり、79年の8月に学校を卒業して、石炭の採炭工に配置され、事実上世帯主になりました。自分と父方の祖母、それから弟妹4人、自分も含めてあわせて6人の生活の責任を取らなくてはならない。その時1番下の末子は男の子で4歳でした。

非常に貧しい暮らしですが、何とか山の草を摘んで草のおかゆ一日一食食べる生活、それだけなら心穏やかに暮らせた。ところが収容所では月に何回か公開処刑をやります。それを見せ付けられて恐怖に震えました。

公開処刑の一番の対象は、川を隔てて14号管理所があるのですが、そこではとうもろこしを栽培していました。ところが18号の炭鉱地区にいる人達は食料が無くあまりにもひもじいので、男性たちの中には川の浅い所を泳いで渡り、14号のとうもろこしを盗んで帰ってくる人が出る。そういう人は見つかる公開処刑です。

公開処刑が一番盛んにやったのが1997年から2000年頃でした。平壤で粛清の嵐が吹いた時に『深化組』事件で粛清された人たちは、自分たちは罪を犯していないと不平をもらすのです。罪も無いのにこんなところに送られたと。すると罪を悔い改めず反抗したということになって、多い日は一日に7、8人公開処刑しました。山の方や谷の方に連れて行って秘密裏に銃殺することも盛んにやっていました。その銃殺された人々の中には、21号管理所の安全部長もいました。

当時金正日は『深化組ですった人間は石炭1トンと引き換えにすれば充分だ』と。だからどんな強制労働させて死なせてかまわないという指示を金正日が公けに安全省に下したと聞いています。

私も79年に学校を卒業してから石炭の採掘工に配置され、92年の10月までほとんど13年間毎日採掘していたのです。粉塵が肺の中に入り長生きできない人が多い。女性はまだまじだった。男性は石炭採掘ではなくて、石炭を採掘できるように坑道を掘る、ハツパを仕掛けて爆破させて石をどける危険度の高い作業で、粉塵もさらに多い。掘進工というのですが、男性は40歳を超えて生きられない人がほとんどでした。

私の弟も学校を卒業したら炭鉱に配置されました。弟は掘進工で1984年に19歳で事故で死にました。

当時炭鉱では1ヶ月に一人当たり600gの塩の配給がありました。それでも全く塩分が足りず、5ヶ月に1回、一

人当たり800gほどの味噌の配給もありました。

味噌の配給日は祝日のようなものです。味噌をもらうとすぐに口に入れてしまいます。残して取っておくというような悠長なことはできなくて、それでも全然塩辛さを感じないほど、身体が塩気に飢えていました。

とうもろこしの配給は1世帯、5.6人家族に5kg。それだけでと命を長らえられないので、草を採って食べる。新芽や花が咲く時期にはすぐ新芽、花を採って食べる。どんぐりは芽が生えると摘んで食べていました。とうもろこしの収穫が終わった後、皮が残りますね、それを天日に干して砕いて粉にして食べました。

卒業後半年で祖母が亡くなり、弟の一人は炭鉱労働で亡くなり、生き残ったのは私と妹2人と弟1人、あわせて4人。全員が炭鉱労働をしていました。

91年10月に結婚しました。男は30歳、女性は28歳を過ぎますと、一応結婚が認められるのです。ただ結婚する相手は移住民は移住民同士、移住民というのは政治犯としてここに送り込まれた人々です。解除民は解除民同士で結婚しないと身分が落とされてしまう。解除民というのは、政治犯としてここに送り込まれてきたのですが、ひとまず罪の償いがある程度終わったと見なされた人達で、同じ地域に住み続けるのですが、身分上は移住民よりある程度自由が認められるのです。安全部のほうに結婚登録すると結婚が認められて一緒に住めるようになります。

結婚しますと炭鉱労働から解除されます。炭鉱労働を免れて家庭の主婦になるのですが、主婦になって何をするかというと、犬や豚を育てるのです。人糞を餌にして育てるのですが、育てた犬や豚を安全部、行政部というところに捧げて当局の覚えをめでたくすると解除、一通り罪の償いは終わったとして一定の自由を与えられる立場にもらえる。その甲斐あって2001年の2月16日に解除という扱いになりました。

91年10月に結婚して以降、そういう物をささげ続けて2001年2月16日に解除ということになりました。解除になると、安全部が一般社会に住んでいる私の親戚に教えるのです。そして一般社会に出て行けるぞ、と言うのです。お前達にここで飯を食わせるのは負担だから一般社会に出て行けと言われて。

社会に出て行けると言われて、最初に訪ねて行ったのが父方の伯父でした。もともとこの伯父、父の兄は平壤に住んでいましたが、私たちが収容所に送られたので、平壤南東のヘチャンという山間の僻地に送られました。訪ねて行って初めてなぜ私たち家族が収容所に送られたかの理由を知りました。

そもそも収容所に送られた原因は父方の祖父が60年代に南の方に逃げていった。私はその祖父の顔を見たことも無いし名前も知りませんでした。伯父の話によると私の父は末っ子で軍隊にいたので結婚が遅れた。それで祖母を引き取って面倒を見ていたのです。その

連帯処罰で私の一家が収容所に送られた。もし長男である伯父が祖母を引き取って面倒を見ていたら、伯父の一家が収容所に送られていただろうということでした。

18号管理所で移住民の食事は、山で摘んできた草をゆで、とうもろこしを少し混ぜ、それ以外に山菜をあえたものの、塩、水、これが基本的な食事です。

基本的に朝7時半までに炭鉱に行って、「8時間労働」という言葉はあるのですが、実際の労働時間は16時間です。7時半から炭鉱が始まって、作業が終わって炭鉱から出られるのが夜の11時から12時。昼食は草のかゆ等持って行って食べる。作業を終わって出ると、木の桶があって、その水を浴びて、真っ黒になった身体を流し汚れを落とすのです。作業を終わって出ると食堂というのが炭鉱に併設されていて、そこで100gほどのコーリャンをもらう。手のひらですくったくらいのもので、それと白菜が入った味噌汁をくれるのです。白菜の味噌汁だけ飲んで、コーリャンは家に持ち帰って家で待っている家族に分けてあげます。

夜の11時、12時に炭鉱労働を終えて小さな飯を持って家に帰る。それで終わらないのです。他の家の人員が居るか互いに監視するための人員点呼を夜中に行います。深夜から明け方5時にかけて、何時間かに1回づつ交代でそれに出なければいけないのです。私は夜11時、12時過ぎて家に帰るものですから、人員確認のために動く時間が大体夜中の2時とか3時。炭鉱労働を終えてもそのまま家で朝まで寝られるのではなく、深夜に起きて、ちゃんと家に人がいるかどうかチェックしなければなりません。

炭鉱労働に携わる移住民の毎日はそのようなものですが、それを管理する安全員と保衛部は、その移住民を自分達の利益のために使役するのです。石炭が山盛りで備蓄されており、練炭を作れとかいるいるな作業を移住民に命じて、自分の利益に沿うよう指示していますし、配給が送られてくると腐ったりしおれたとうもろこしの粒は移住民の配給にまわして、米とか小麦などは管理する側がもらってしまう。ですから海外からの食糧支援も米などは絶対に送ってはいけません。それは移住民には絶対渡らず、管理する側の人間の口に入ってしまうのです。そういう物を送ってもあの体制を強化するだけです。

収容所の保衛部員は野獣のような悪魔のような連中です。18号管理所は石炭の採掘をやっているところですから、道は粉塵でいっぱいです。どうしても痰を吐きたくになります。ところが保衛員はその痰を道に吐かないのです。道に吐かないで、近くにいる移住民が目につくと、指で来いと合図して呼び寄せる。呼ばれると駆け寄ってひざまずかなければならない。ひざまずくと口を開けると言われて、その口の中に痰を吐く、それをそのまま飲み込めば殴られないで済むのですが、ちょっと戸惑って吐い

てしまったりしますと、とたんに殴る、蹴るをされるのです。私は28年間収容所にいる間にそれを3回やられました。痰を吐くのさえ、わざわざ道に吐かないで、囚人達を呼びつけて口の中に吐きかけるのです。

保衛員や安全員など管理する側の区画、住居があって、その子供たちもいます。そういうところで育つせいかなぜか勉強ができない子供達が多いのです。管理する側、保衛部、安全員の息子たちの中で、上のいい学校に行けない者たちがこの18号に配属されて、自分たちで巡察隊と称するものを組織して、行き来する移住民が何か荷物を持っていると、「中身を出せ」と、めばしい物があると盗ってしまう、そんなことをやって過ごしています。

とても乱暴なことをやるのです。炭鉱で石炭を採掘するのは女性たちです。男性は早死にする人が多いので、独り身になる女性が多い。その女性たちも夜間石炭採掘作業に出る。その時に巡察隊の者が強姦するのです。ひどい事件もありました。強姦しようと思って捕まえてライトで照らしてみたら、年取った女だったと。それで、「面白くない」と、その女性の子宮に砂を一杯つめたら、その女性が死んでしまった。それだけひどいことをやっても、管理する側は処罰されないのです。もし移住民の人間がそれに類することをやったらたちまち公開処刑、銃殺ですが、管理する側の人間は処罰されない。本当に獣のようでした。

女性も年を取ると炭鉱労働ができなくなり。そういう女性は生き延びるために山で山菜などを採ってそれを管理する人達に捧げて、引き換えに何かもらって食べることで何とか生き延びるのです。けれども管理する側の人間にも程度の違いがあるのです。ましな人は摘んできた山菜の対価にとうもろこし500gくれたり、1kgくれたり、それで老婆たちは何とか生き延びる。ところがひどい人になると白菜をつけた残り汁を一杯だけ渡して、「これで帰れ」という扱いをする。ひどさにも程度がありました。

管理所の中にも売店、食堂、配給所があるのですが、そういうところでうまい汁を吸うのは全て管理する立場の人の妻です。物資を自分たちの懐に入れてしまいます。その人たちにとっては管理所は大変生きやすい所だと思います。

金日成が生きていた頃は少なくとも最低命を長らえるだけのとうもろこしの配給はちゃんとありました。ところが金日成が94年の4月に亡くなると、それ以降だんだんなくなってきて、96年の末頃にはそのまま気力絶えて、道端で倒れて死ぬ人がたくさん出ました。食べ物が無くて炭鉱労働に行く元氣も無いのですが、それでも家でうずくまっていますと捕まって処罰されますので、痛い目に合うまいと、這ってでも行く、杖をつきながら炭鉱に通う途中で倒れて

死んでしまう。はじめは行き倒れの死体を見て恐ろしかったのですが、死体があふれたものですから、怖くもなくなり、平気でまたいで歩くようになりました。

私は解除となって社会に出たのですが、生きていけないので2005年中国に逃れました。中国では食堂で賄いの仕事をしていたのですが、食堂の主人から北朝鮮で豚を仕入れて来いと言われ、北朝鮮に入った時に捕まり、また収容所に送り込まれました。2008年です。その時、一緒に一晩監房にいた女性です。その女性は食べ物は何も無いので、自分の息子の頭を斧で割って殺し、その肉を全部そいで、豚肉商売している人に豚肉だと称して売って、代わりにとうもろこしを十数kgもらい、それが発覚し捕まりました。

一生懸命努力して、命長らえて2001年に解除になりました。ところが一般社会に出て暮らそうと思ったら、ある程度お金がないと生きていけません。最初は伯父、父方の兄を頼ったのですが、そこもいられないので、いったん2003年に当時12歳になる娘と9歳の息子を他人の所に預けて、商売でもやろうと清津に行きました。そのうちに洪水が起き、預けていた娘、息子が流されて行方知れずになりました。

子供も失い、私には社会に居場所がない。どうやって生きていったらいいのか、まともに食べられないまま、うるつきまわっていたものですから、とうとう歩けなくなって、あるところで治療というか療養というかたちばかり入れてもらっていたのです。その時にあるおばさんから、「それなら中国に行ったら？」と誘いを受けました。

その声をかけてくれたおばさんは人身売買のブローカーだった。その人は、国境警備隊とつながっていて、警備隊員に賄賂を渡して、人を中国側に売って対価を得ていた。この人の手配で、2005年8月13日に国境警備隊の人間に手をつながれて、川を渡って中国の方へ入り、中国のブローカーに手から手に引き継がれたのです。49歳の私はとても年を取って見えたので売れませんでした。一緒に行った27歳と24歳の娘は中国で3000円で売られて、中国の朝鮮族が3万円で買ったそうです。ところが、私は売れず、延吉にあるカルビスープの店に送られて、食堂の手伝い、賄いをやりました。その主人が2007年の11月になって、北朝鮮で豚を仕入れて来いと命じました。私は北朝鮮に行きたくなかったのですが、断ったりしようものならどこか山奥に連れて行かれて殺されてしまうのではないかとこの恐怖がありました。

というのも、川を渡って中国に入った際に死体をいくつも見たのです。女の死体を。中国のブローカーに引き渡す際に、言うことを聞かなかったり抵抗して殺された女たちでした。

そのように中国では相手の言うことを聞かないと殺されてしまうのではないかとこの恐怖があったので、仕方なく食堂の主人の指示に従って、北朝鮮の茂山(ムサン)のほうに渡りました。茂山の市場で豚を15匹買い、中国の方に送ったのです。そして主人からまた指示が来て、さらに5匹仕入れて送れということで引き続き滞りして当局に捕まったのです。

当局に捕まって、他に住所地もないので、また18号に送られることになった。2008年の1月25日に18号に送られて20日間拘留されたのですが、それを伝えられた弟、妹がとうもろこしを挽いた粉の飯を差し入れに来た。ところが面会はさせてもらえず、とうもろこし粉の飯を差し入れに何回か来ただけで、会えませんでした。そして取調べを受けている間に、自分の子供を殺して食べたという人と同房になったりして、自分がいた頃よりはるかに劣悪な状態になっているということを聞いたのです。

私が収容所にいた2002年以前は、人が人を食べるという話は聞いたことがありませんでした。ところが2008年に戻ってきたら人が人を食べるという事件が頻発していて、安全員たちも飛び回っていた。しかも、私が拘留されている間に、具体的に自分の子供を食べたという人と2人も会っているのです。2008年当時、とうもろこしの配給は一切なくなっていると聞きました。

北朝鮮を出る時は48kgだった体重が2008年に収容所に送り返されたときは74kgになっていました。私の肉付きを見て安全員が話を聞かせると、何を聞いたかと言うと、『本当に中国では飯が食えるのか』『肉が一杯食べられるのか?』と。『米飯も食べましたよ』と言うと、『そうか。どうやって向こうに渡ったのだ?』と聞くので、『国境警備隊が向こうに橋渡ししてくれます』と言う話をしたら『そうなのか』と。話を聞いている安全員も2008年当時は裂けた靴を履いていた。安全員たちの聞き方は具体的でした。具体的に茂山からどうやって行くのか、その様子を見て、この人達もルートさえわかれば逃げたいと思っているのだと感じました。

結局、安全員たちも、人をとらえて食う事件が頻発しているので、私一人にかまっていられなかった。私を労働教養所に6ヶ月行けと言うことで送り込んだのですけれども、女性は私1人しかいなかった。他の監房は男性がびっしり。一緒に入れる訳いなく、食堂に配置されて食堂のいろいろな下働きをさせられたのですが、2008年3月2日の夜9時40分すぎに、はだしてそこを抜け出した。抜け出す前に鍋についたおこげなどを蓄えておいて、服にひそませて、雪が降っていましたが、歩いて逃げ出しました。

結局行くところがなく、中国に逃げるしかない。一旦おばの家に行きお金を無心し、それから乗り合いの自動車に乗ったりして、何とか13日かけて茂山

の方に行きました。

ようやく中国との国境の町、茂山に着いたのですが、すぐには中国に渡れなかった。年をとりすぎていて中国で売り物にならないので、ブローカーが引き受けてくれなかったのです。何とか向こうに渡る伝手を求めて何日か茂山にいました。その間に北朝鮮の人民もこの政治に背を向けているのだと実感する事件がありました。それは茂山の駅前に白地に赤い文字で『21世紀の偉大な太陽 金正日將軍万歳!』というスローガンが掲げてあったのですが、それを夜中に誰かが墨で消してしまって、その上に『滅び行く金正日時代よ、さっさと滅びてしまえ』と書いてあったのです。そこに安全員たちが動員されてやってきました。滅びてしまえと書いてあるのを覆ってから、筆跡を鑑定するのだと道行く人を誰それかまわらず捕まえて書かせて筆跡を調べていたのです。

ようやく中国への伝手が見つかって、6月4日に豆満江を渡り、中国人、漢族の家に売られました。そこでしばらく潜んでいたのですが、脱北者を韓国に送り込むブローカーと縁ができて、去年の3月4日に出発し、東南アジア経由で4月8日に韓国に入りました。

絵の説明

●2000年にあったことなのですが、この男性が年老いた両親といて食べ物が無い。この男性が夜中に仕方なく農場の方に入り込んで、とうもろこしを30本程、盗んで持って帰ったのです。それを解除民の管理委員長という人が発見して捕まりました。この人は見せしめのために、管理委員会が道路の四つ角の人通りの多い所にあるのですが、そこでとうもろこしを手握せたまま一週間この姿勢で立たせました。夜は管理委員会で捕らえておいて、昼はずっとこうして立たせた、そのように1週間さらした後に公開銃殺しました。

●北朝鮮で有名な女性科学者ペク・ソルヒ(白雪姫)がなぜか94年にここに送り込まれました。60歳過ぎでしたが、炭鉱労働をさせられていました。

●これは山で草を採って食べたり、木の皮をはいでそいで食べたりしている様子です。こうしないと生き延びられなかったのです。

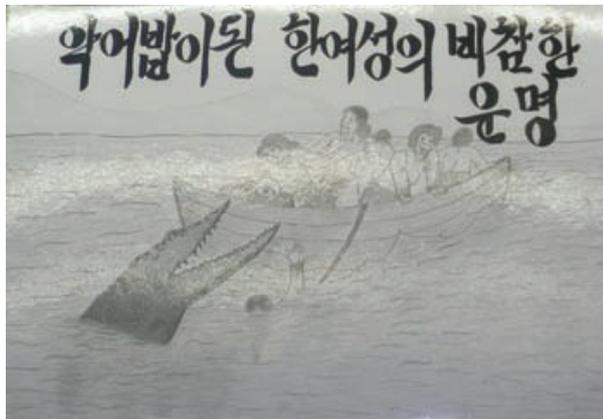
●基本的に収容所の公開処刑は銃殺なのです。銃殺は数限りなく見ました。特に罪状が重いとされた場合に絞首刑にするのですが、見たのは2回です。2001年のことですが、53歳の女性が手相を占ったのです。それが迷信を弘めたとされて絞首刑にされました。

○実際中国では食べるものの心配は無かったです。私をお金で買った漢族の人たちもちゃんと守ってくれました。金を出して買ったものだから、むやみに当局に摘発されて送り帰されてしまつては、お金がとんでいってしまうの

ので。ただ安心しては暮らせない。いつ捕まって送り帰されてしまうかわからない。送り帰されたら、こんどこそ本当に銃殺されてしまうので、韓国行きを仲介するブローカーの話を聞いて、実際韓国に渡って行った人々がちゃんと手当てをうけて暮らしているのを知って、韓国に行こうと決心しました。

●ラオスから船に乗ってタイに行くまで、船で5時間半かかりました。その5時間半の間に、この方々は16人一組でタイに入ろうとしたのですが、船で女性が1人落ちてしまって、ワニに食べられて死んでしまいました。この絵は『ワニのえさになった女性の悲惨な運命』と書いてあります。

16人のチームでしたが、3つの船に分かれて乗り、私が乗っていた船には6人いました。中国を出た時は冬でしたが、東南アジアのほうに来たら暑いので、女性一人が身体を冷やそうと船から手を伸ばして水に手を当てていたのです。そしたら、ワニに咬まれて水にひきこまれ、食べられてしまいました。



●これはラオスの山中を2時間40分程かけて船に乗る所まで歩いたのですが、その道中を描いたものです。

●これは北朝鮮から中国に渡ったときに国境警備隊に3000元渡して一緒に手をつないで渡って行ったのです。ブローカーが警備隊に3000元渡しました。今度は逆に中国側から北朝鮮に入ってくる女性たちですが、国境警備隊が待ち構えていて、女性たちが持ってきたお金などを取り上げて殺してしまった場面です。

私が直接見たのです。豆満江の川辺に殺されてそのままになっている女性の遺体がありました。生かしておくので、巻き上げられる物は全部巻き上げて殺してしまう、これはよく起きています。

●これは中国の山中を逃避行している様子です。北朝鮮には山に木が無いですが、中国に入ると木が豊かです。

●これは、2008年に収容所に送り帰されたときに、労働教養所に送り込まれた時の様子を描いたものです。私が労働教養所に送り込まれたのは2008年の2月15日、金正日誕生日の

前日です。16日は安全員も休まなければならない、お前をかまっている余裕はないと。前日の2月15日に安全員が自転車の後ろに乗せて労働教養所まで送った。労働教養所に来てみたら男性だけが30~40人いた虚弱になって労働ができない人とか、保衛部とか安全員の家に入り込んで靴を盗んだとか、そういう人達にさらに懲罰的な労働をさせているのです。ここでは女性は私1人だったので、男の群れと一緒に労働させるわけにいかないと、労働教養所内の食堂の仕事をさせられました。その際を見て逃げ出しました。

●これは安全員や保衛部の息子です。二十歳そこそこの若い男なのです。自分は家でテレビとか見ているのですよね。で、時々労働している様子を見に来る。食べ物が無くひもじいものですから、あまり元気が無いです。そうすると、こういう棒でたたいて打ちのめすということをよくやっていました。

●収容所内の貧富の差と書いてあるのですが、これは豚肉の商売をやっているのは誰かということ、もともと管理する立場の人だったのですね。ところが除隊して家にいるのですけれども、こういうかたちで商売をはじめると、この人の話だと、先程自分の息子を殺して、肉をそいで売ってしまったと。それで、この男が人間の肉と知りつつ、豚の肉と混ぜて売っていたというのですね。

近くに描いてあるのは移住民の子、収容所の囚人の子、こじぎのような様子で、肉の売買を見ている。

●収容所の中に病院があります。収容所の看守の息子たちで、医療の専門学校にちょっと通った人達が医者のも真似事をしていきます。炭鉱ですら、事故で腕がなくなった、足が無くなったという人がたくさんいるのです。ここに行くと診断書を出してくれる。診断書を出してもらえると休めるのです。ただ薬はありません。診断書を出してもらえると一番長く休めて3日。事故で足が無くなった人、腕が無くなった人でも最高3日です。3日休んだら、また炭鉱に出なければいけない。

●この人は食べるものがなくて毒草を食べてしまった。毒草を食べると、全身に浮腫が出てむくむのです。目も開かない。そういう人が来て、何とかしてくれと言っています。

炭鉱から山までの距離は20キロあります。それで一往復したら8時間終わるのです。そういう過酷な労働をしている。



●これは男性達です。男性達は先程言いましたように、坑道を開くための作業をしているのですが、石が多いですよね。石をしょいこで運ぶ。30kgにはなりませんが、ただでさえ栄養失調ですから耐えられなくて倒れてしまったり、石もよく落ちてくる。男性の場合とはとても事故が多いです。

ここから質問を受けました

▶質問者「炭鉱で石炭をたくさん採るというのは北朝鮮では、日常的にやっていることではないかと思うのですね。正規の労働者がいるにもかかわらず、こういったかたちで収容所の石炭を掘らせているということは、正規の炭鉱労働はどうなっているのでしょうか。」

●1960年代にこの地域を地質調査したのです。そしたら石炭がたくさん埋まっている所だったと。ところが、一般社会の炭鉱労働にしてしまうと採掘の効率が非常に悪い。一般労働者は8時間働いたら、それ以上仕事しませんから。だから石炭をしっかりと採る目的でこの地域を管理所にしたのです。同じ地域に北倉(ブッチャン)の火力発電所があるのです。ここでしっかりと石炭を掘らせて、その火力発電所を稼働させるために、石炭採掘労働の効率を上げる目的でこの地域を収容所にしたのです。

この18号以外にも安全省管轄の管理所はいくつもあります。

私は2002年に解除になって社会に出て以降、生きるため商売するために清津や平城に行き来しました。その間に安全省管轄18号管理所以外に、咸鏡南道端川(タンチョン)にこれも安全省管轄の19号管理所があって、そこから出てきたという人の話を聞いています。

それ以外に、深化組事件で18号に送り込まれて秘密裏に処刑された人たちの中に、21号、23号、24号、19号の管理所の安全部長という人たちもいて、次々処刑されたのを知っているのです。

どのような経緯で知ることになったかですが、炭鉱労働をしていた夫が2000年4月に死にました。夫が死んだので代わりに私が労働に出なければ生きていけなくなり、配置されたのが建設職場のかわら班です。かわらを作るために石や砂利を集めなければならぬので、大同江の川辺に行って作業することがあったのです。砂の採取のために大同江の川辺に行きましたら、銃声が鳴ったのです。このとき私はかわら班の班長をやっていたので、安全部の人から言われるが

まま、セメントやかわらの横流しに応じて便宜を図っていました。安全部の人と面識ができ、話を聞いたのですが、他の管理所の責任者をここに連れて来て秘密裏に処刑したのだという話を安全部の者から直接聞きました。その時に処刑に立ち会った人の服装も見えています。

北倉郡鳳倉(ボンチャン)里の安全部長は制服を着ていましたし、鳳倉里の党責任秘書も一緒に出てきて、処刑に立ち会っていました。そこで話を聞き、他にも安全省管轄の収容所があると知りました。それ以外は商売している過程で19号の管理所にいて出てきた人の話を直接聞きました。

▶質問者「19号、21号、23号、24号、安全省管轄の管理所が現在もあるということですか。」

●現在もあるということです。それ以外にも北倉火力発電所の近辺に、保衛部管轄の12号管理所もあります。どنگりを拾うために、そっちの境界の方まで行ってしまったことがあります。いきなり捕まって目隠しされ、持っているものを全部回収されました。それは12号の警備隊の少年兵でした。彼らが「お前18号から来たのか」と言って、すぐに18号に連絡を取って18号に引き渡されましたが、近い位置関係で12号という管理所もあります。

18号から引き取りに来て、車の中ではずっと目隠したままで、18号に近づきようやく目隠しをとりました。そのくらい徹底的に保安員が気を使っている12号の管理所というのがあって、見ますと鉄条網の高さは4メートルほど、その手前の3メートルくらいの所は草木を全部刈ってあって何も無いさら地にしてありました。

▶質問者「着る物とか布団とかはどういうものだったのですか。」

●過酷な労働をしているものですから、すぐに服がぼろぼろになります。2、3年に一回、綿の上着と下ばきの供給はあるのです。ただそれもすぐぼろぼろになってしまうので、それをどうやってつぎはぎして着るかというのが課題で、針も糸もないので、米の入っている麻袋を何とか入手して、それを解いて、それは硬いですよね。それを針代わりにして、糸代わりにして、つぎはぎにして何とかもたせて着るのです。

布団ですが、収容所で供給はしません。

送り込まれるときに一組持っていった。それ一つで7人家族全員寝ました。なんとか足だけ入れる、身体の部分だけ入れる、寒い人は寒いということです。もともと布団は母が嫁入りする時に用意したもので、1960年代に入手したものです。それを70年代に収容所に送り込まれるとき持って行った。私が収容所を出る時に弟、妹に渡してきましたので、40、50年使っている計算になります。

管理所の学校に通っている当時を思い出しても、靴を履いている子はいなくて、裸足で行き来していた。学校の入り口のところに雑巾とバケツが置いてあって、バケツに足を入れて、雑巾でふいて上がるというかたち。冬になると寒さをしのぐためにビニールのようなものが手にはいれば非常に幸運で、それを足に巻いて過ごしていた。学校には1学年に80人から90人、小学校と中学校合わせて500人くらい子供達がいた。北倉の収容所内には学校が4つあり、一つは管理する立場の子供達の通う学校、あと3つは収容者たちの子供たちの通う学校で、あわせて4つでした。

▶質問者「どのように出産したのですか。」

●子供を産むときは一人でした。夫は炭鉱労働で出ていたので。ただ幸いなことに、隣の家におばあさんがいてその時は手伝ってくれました。

▶質問者「オムツはどうしたのですか？母乳は出たのですか？」

●赤ん坊が生まれて、当然布などないので、それまで使っていた布団をちょっとむしってあてるとか、着ていた服をちぎってあてる。衛生などという観念は当時はありませんでした。最初の娘を産んだときは家で産めましたが、息子を産んだ時は、山に山菜を採りに行った帰りに道で産みました。山菜を積んだしょいこが背中にあるので、自分の着ていた服を脱いで、子供を包んで家に戻りました。

▶質問者「ラオスの川にワニいないことはないのだけれども、ワニがいたとは信じがたいのですが。」

●これは私が直接見たのです。私が当時聞いていたのは、ワニが成長するのは7、8月。私たちが行くのは3月だから

比較的安全だと。船のスピードも速いと。ところが大型の中国の船と遭遇して銃を向けられ、スピードを落としたのです。私たちの船にはそれぞれラオスの男が2人乗っていました。彼らはみなピストルを持っていました。ところが向こうの警備をする人間がこっちに銃を向け、「来い」とやっているの、それに気をとられていました。そしたら、隣にいた人が手を水に浸していたのですが、ワニに手をかまれ水中に引きずり込まれた。それ以外にももう少し先の方に様子を窺っているワニがいた。私が直接見たのです。

▶質問者「同じ船にいた人がですか」

●そうです。隣に座っていた人です。タイで待ち受けていたブローカーは、「16人引き渡すことになっていたのに、何で15人しかいないのだ」と文句を言っていました。一旦タイに入った後で、韓国大使館で聞き取りされましたが、韓国に送り出されるまでおよそ3、4ヶ月掛かるそうです。私たちは来る途中ワニに食われて一人死んだということに非常に怯えていたので、それを聞いた韓国側がスピーディーに対応してくれて、20日間でタイから出て韓国に送られました。

16人のチームで来て、1人亡くなってしまって、3つの船に分かれたうちの、6人乗っていて1人食われて5人になった組だけ、20日間で速やかに韓国の方へ送ってくれたのです。残った10人は何ヶ月かいたあと韓国に送られたと聞いています。

(テープ起こし・写真/木原和子、監修/宋)

▶質問者「強制収容所内にある売店を利用するのは自由民ですか。」

●先程、絵に描いたのは隊内、管理する立場の人達ですね。その立場で仕事していたけど、除隊した人達も含めて隊内の人達が利用する商店。ただそれ以外に移住民の商店もあるし、解除民の商店もある。ただ、移住民向けの商店は名ばかりで、味噌や塩を供給する所なのです。そこの運営に当たっているのは管理する人達の妻などです。先程の豚肉を売っているような商店は移住民や解除民は使えないのです。

▶質問者「移住民はお金を利用するのはですか。」

●炭鉱労働1ヶ月で大体64ウォンから78ウォンの労賃が支給されました。これは2002年以前の話です。このうち10ウォンを持って商店に行くと、1ヵ月分の配給を出してくれました。6人、7人の家族に対し、月5kgのとうもろこしや塩の配給を出してくれたのは10ウォンで出してくれる。ただ、さらに10ウォン出したから2倍くれるというではありません。配給分以上の食糧を購入しようとする、当時とうもろこし1kg買うのに50ウォン必要でした。移住民の商店でも月々にもらうお金で、とうもろこしを1kg、2kgさらに買ったり、石鹸を買ったりということはやりました。

2002年の新経済措置以降は、私は当時建設職場のかわら班長でしたが、当時1ヶ月の労賃が1,700ウォン。このうちの1,200ウォンを払うと1ヶ月分の配給がもらえました。

絵で描いた北の政治犯収容所

社団法人北朝鮮民主化ネットワークは、北朝鮮の政治犯収容所の実状を知らせるために「絵で見る北朝鮮の政治犯収容所」を20ページに渡る資料集を発刊した。

資料集は脱北者のキム・ヘスク氏(平安南道ブクチャン郡の18号政治犯収容所に1975年から2002年まで収監)、シン・ドンヒョク氏(平安北道ケチョンの14号政治犯収容所に1984年から2005年まで収監)、アン・ミョン Chol 氏(咸鏡北道会寧の22号政治犯収容所に1980年後半から1994年中盤まで、警備隊として勤務)等の証言と、彼らが直接描いた絵を土台に製作された。

(デイリーNK [2011-02-01]より)



< 7頁で説明の衛星写真 ①(左)、②(右) >

